



石川県リハビリテーションセンターニュース

～令和5年度事業について～

目次

地域リハビリテーション支援事業のご案内	1
リハビリテーションに必要なA T (Assistive Technology)に関わる人材の育成	2
リハビリテーションやバリアフリーに関する啓発普及事業のご案内	2
リハビリテーションに関する研修事業のご案内	3
難病相談・支援センター事業	4
高次脳機能障害相談・支援センター事業	5
A T (Assistive Technology)に関わる専門職との連携	6

地域リハビリテーション支援事業のご案内

障害のある子どもから高齢者までの全ての人が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを目指し、医療や介護、生活支援等のサービスが一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みが進められています。そのためには、介護予防、障害の発生や進行の予防の推進、急性期・回復期・生活期のリハビリテーション（以下、リハ）の質の向上と切れ目のない体制整備、ライフステージにそった適切なリハサービスの整備と充実が必要です。

地域リハは、障害のある人や高齢者にリハが適切に提供され、共生社会を創生することを目指しています。この目的を達成するため地域リハの活動としては、①障害の発生を予防するため、リハ専門職が介護予防の諸活動に積極的に関わっていくこと、②あらゆるライフステージに対応したリハが総合的かつ継続的に提供できる支援システムを各地域に構築していくこと、③さらに、機能や活動能力の改善が困難な人々に対しても、できる限り社会参加を促し、その人らしく過ごせるよう支援がなされること、が活動の指針となっています。

当センターでは、各市町が実施する地域支援事業を理解し参画できるリハ専門職の人材育成や、障害のある児・者に対して自立を視点においたリハ支援が各地域で実施できるようリハに関するネットワークづくりを目的に、事例検討会や研修を進めています。今年度も例年どおり研修を予定していますが、その一つとしてコミュニケーションに障害のある方々に対し、機器等による代替手段を利用したコミュニケーション支援の充実を図るために、下記の研修を県内3会場で開催しています。実際の機器等の試用体験や支援者同士の交流の場として意見交換ができればと考えておりますので、多くの方々にご参加いただければと思います。その他の研修内容については、改めてお知らせいたします。

意思伝達装置装用訓練等支援事業説明会

日時	内容	会場	対象者
9月1日(金) 午後	研修と意見交換 「生活の中でのコミュニケーションの大切さについて(仮)」 講師：国立病院機構医王病院 中本 富美 氏(ソーシャルワーカー) コミュニケーションに障害のある当事者	【能登地区】 能登中部保健福祉センター	介護支援専門員 相談支援専門員 市町職員 保健師、看護師 等
9月8日(金) 午後	「在宅でのコミュニケーション支援について(仮)」 講師：各地域の支援者	【石川中央地区】 県リハセンター	
9月15日(金) 午後	コミュニケーション支援機器の体験	【加賀地区】 南加賀保健福祉センター	

また昨年度より、医療の訪問リハや介護保険の訪問リハ、通所リハの資源調査を行っています。各地域においてライフステージに対応したリハ資源を把握することで、各地域のリハ支援体制の課題や、その必要性についても取り組んでいきたいと考えていますので、リハに関する資源調査へのご協力および、なお一層のご指導をよろしくお願いいたします。

リハビリテーションに必要なAT(Assistive Technology)に関わる人材の育成

各地域での確かなリハ支援を提供できるよう、医療・福祉の連携、顔の見える関係づくり、地域の相談支援体制づくりを進めていますが、自立支援機器を用いたAT(Assistive Technology)を提供できる人材は不足しているのが現状です。このため、更なる知識・技術の向上をめざした研修事業等を下記のとおり開催いたします。

1 自立支援機器スペシャリスト人材育成

平成29年度から、リハ専門職と福祉用具専門相談員の専門性をより高めるため、演習を中心とした自立支援機器の実践研修を開催しています。今年度は「車椅子編」「コミュニケーション編」をテーマに、当事者を招いた演習や実際の機器等の試用体験等を参集形式にて開催しますので、多数の方のご参加をお願いいたします。

(1) 車椅子編（基礎技術研修）

対象者をアセスメントするための知識と技術についての講義や演習を下記のとおり開催いたします。日々の業務で悩んでいる方、経験は少ないが、車椅子利用者に関わる機会のある方、ぜひ一緒に考えていく場として活用してみませんか。

回	日時	内容および講師	対象者
1	令和6年1月13日(土)	講義「車椅子適合の進め方と必要な知識(仮)」 演習① 情報収集と評価(仮) 講師：当事者、県リハセンター職員	理学療法士、 作業療法士、 言語聴覚士、 福祉用具専門相談員 等
2	令和6年2月17日(土)	演習② ニーズに応じたプランの検討(仮) 講義「車椅子適合実現のポイントと注意点(仮)」 講師：当事者、県リハセンター職員	

(2) コミュニケーション編（基礎技術研修）

コミュニケーション支援の考え方と評価・適合や、機器等を用いた実習を中心に、参集形式にて行う予定としています。詳細が決定次第ご案内しますが、実習の性質上、同じ内容で複数回開催する予定ですので、同じ職場の方でも日を分けて参加され、職場全体の技術向上の場としてみませんか。

※今年度も、車椅子、コミュニケーション支援の研修修了者を対象にフォローアップ研修を予定していますので、復習の場として、ぜひご参加ください。

2 自立支援機器情報交換連絡会

本連絡会はメーカーの方々にご協力いただき、最新の福祉用具を紹介することを目的として、定期と臨時開催形式で行っています。今年度は、参加者の方々が実際に機器を体験できるよう、参集形式での開催を予定していますので、後日改めてご案内いたします。臨時開催や機器等に関連する情報については、「[自立支援機器情報交換連絡会 メールアドレス登録](#)」に申し込みいただければ幸いです。

自立支援機器情報交換連絡会 メールアドレス登録について

当センターホームページに登録方法を掲載していますので、ご参照いただき、申し込みください。また、右QRコードから直接登録することもできますので、ご活用ください。



リハビリテーションやバリアフリーに関する啓発普及事業のご案内

当センターでは「バリアフリー体験住宅ほっとあんしんの家」の見学や、福祉用具等の体験を通して、「住み慣れた地域で生き生きとその人らしい安心した生活をする」という地域リハビリテーションの理念、すべての人が「生活する上で障壁のない社会の実現をめざす」というバリアフリーやノーマライゼーションの考え方についての啓発普及事業を実施しています。下記の内容を実施していますので、施設見学や貸し出し希望の際は、お気軽にお電話で問い合わせください。

<実施内容>

- ・ほっとあんしんを家の説明及び見学体験（一般県民向け）
- ・小、中学生を対象に、ほっとあんしんを家の見学体験や高齢者疑似体験、車椅子体験（ジュニアコース）
- ・リハ専門職養成校や医療福祉の各種養成校等を対象に、福祉用具等の体験や介護技術に関する実習等の実施
- ・各種イベント等での福祉用具やバリアフリーに関する啓発普及活動の実施
- ・高齢者疑似体験セットや車椅子の貸し出し

当センターホームページに、福祉用具やバリアフリー住環境等に関する啓発普及内容を掲載していますので、ご参照ください。右QRコードから直接ページをご覧ください。



専門学校を学生を対象とした福祉用具の体験実習

リハビリテーションに関する研修事業のご案内

1 リハビリテーション支援指導研修

共生社会の実現に向けて、リハ専門職やリハに関わる支援者の知識の習得と技術の向上を目指すための研修です。

(1) リハビリテーション医療専門職研修

文部科学省が実施している学校基本調査では特別支援教育を受ける児童生徒数が年々増加しており、教育現場の中でリハ専門職の関わり方の必要性が高まってきています。県においても、特別支援教育に関わるリハ専門職が少しずつ増えてきており、今年度は教育分野におけるリハ専門職の関わり方について、県内の状況把握をするとともに、知識や技術の向上を図るための研修を開催いたします。

日時	内容および講師	会場	対象者
7月29日(土) 14:00~16:30	「特別支援教育に関わるリハ専門職の取り組み」 県内の特別支援教育に関わっているリハ専門職からの実践報告と意見交換会を予定しています。	県リハセンター 4階 大研修室	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士 等
10月5日(木) 18:00~19:45	講演：「障害のある子どもたちの可能性を引き出す見方や考え方を学ぼう(仮)」 講師：医療法人 ハートフリー やすらぎ 黒澤 淳二 氏(作業療法士)	オンライン開催	

(2) 教職員リハビリテーション研修(ハイブリッド形式で開催)

障害のある子どもたちの能力を引き出すために、教職員とリハ専門職が共通認識を得るための研修を、いしかわ特別支援学校と共催で開催いたします。

日時	内容および講師	会場	対象者
8月2日(水) 10:00~12:00	「教育現場で活かせる、リハビリテーションの見立ての視点」 講師：神奈川県立麻生支援学校 自立活動教諭(専門職) 本間 嗣崇 氏(作業療法士)	いしかわ特別支援学校	小中学校・ 高等学校の教職員 等

2 福祉用具の活用を図る研修

介護・福祉職の人材不足のなか、高齢者や障害のある方の自立促進と、職員の介護負担の軽減や業務の効率化を図るため、当センターでは福祉用具や介護ロボットに関する知識の習得や活用技術の向上を図る研修を、実施しています。

(1) 職場環境改善研修(ハイブリッド形式で開催)

施設の管理職の方を対象に、福祉用具や介護ロボット導入により職場環境の改善に努めている事業所の実践例をご紹介します。今年度は障害分野の施設における環境改善の取り組みに関する研修を下記のとおり開催いたします。

日時	内容および講師	対象者
7月4日(火) 13:30~15:30	第1部 特別講演：「施設における移乗機器・ICTの活用とその効果 —職員の身体を守り、利用者の能力を活かす—(仮)」 講師：社会福祉法人すぎのこ村 障がい者支援施設ひばり〜ヒルズ 施設長 武久 晋介 氏 実践報告1：「利用者の生活支援の視点から—浴室環境の整備と日中活動の取り組み—(仮)」 講師：社会福祉法人四恩会 今浜苑 支援課長 佐野 智子 氏 実践報告2：「利用者の身体特性に合わせた移乗介助の実践(仮)」 講師：社会福祉法人福志会松任 特別養護老人ホームつるべ荘 介護室室長 竹澤 しのぶ 氏 第2部 「助成金制度の概要とポイント」 (県長寿社会課、県障害保健福祉課からの報告)	施設の管理職、 現場リーダーと なる専門職 等

(2) 福祉用具活用支援研修(出前型で開催)

昨年度より、それぞれの介護現場で、対象となる高齢者や障害のある方を通して、具体的な福祉用具等の使い方研修を実施しています。希望される施設へ訪問し、現場に即した実技研修等を実施します。申し込み等に関する詳細は後日ご案内しますので、ご活用ください。

(3) 住宅改修に関する研修

リハ専門職の方々には、昨年度より新たなテーマとして「ADLと住環境」を取り上げ、当事者の身体特性と動作を確認しながら住環境の理解を図る研修を開催しています。今年度は、高齢者に多い立位で移乗する方々の住環境とADLをテーマとして、生活動作を通じた住環境整備について研修を企画しています。詳細が決定次第、ご案内を発送いたします。



昨年度開催した高齢者施設での福祉用具活用研修

難病相談・支援センター事業

難病相談・支援センターでは、難病患者さんとご家族が抱えている病気や日常生活上の不安を軽減し、安心して療養生活を送ることができるよう、各種相談をはじめ、当事者間の交流、講演会の開催、福祉用具や住宅環境の調整等の支援を行っています。

1 専門相談

「これから症状がどのように進んでいくのか不安」「どのような治療法があるのか知りたい」等、病状や治療などについて専門医による面接相談を行っています。【予約制です。日時は事前に調整いたします。】

担当専門医等	対 象 疾 患 等
脳神経内科医	パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症/視神経脊髄炎、重症筋無力症、多系統萎縮症、進行性核上性麻痺、筋萎縮性側索硬化症、大脳皮質基底核変性症、筋ジストロフィー 等
免疫内科医	シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、皮膚筋炎/多発性筋炎、高安動脈炎、悪性関節リウマチ、成人スチル病、IgG4関連疾患 等
整形外科医	後縦靭帯骨化症、特発性大腿骨頭壊死症、広範脊柱管狭窄症 等
難病医療相談員	社会福祉制度や療養に関する相談

2 就労相談

「自分の症状や体力にあった仕事を見つけたい」「会社に難病があることを伝えた方がよいか」等、難病のある方の仕事に関する悩みや疑問を解消するために、個別相談の日を設けています。

日 時：毎月第3木曜日 13：30～15：30 【予約制です】

助言者：ハローワーク金沢 難病患者就職サポーター 国田 直樹 氏

会 場：県リハセンター

3 相談支援担当者難病研修（オンライン形式で開催【難病ホームヘルパー養成研修と同時開催】）

難病患者の多様化するニーズに対応した適切な支援が提供できるよう、難病患者の相談支援担当者を対象とした研修を行います。

日 時	内 容 お よ び 講 師	対 象 者
令和6年1月19日(金) 13:30～16:00	①「石川県の難病対策」 講 師：県健康推進課職員 ②「難病相談・支援センターについて」 講 師：県リハセンター職員 ③「神経難病の理解」 講 師：独立行政法人国立病院機構医王病院 医師 ④「当事者の視点から」 発 表：難病患者当事者	介護支援専門員、 相談支援専門員、 訪問看護師 等
令和6年1月26日(金) 13:30～15:30	①「在宅難病患者への看護」 講 師：独立行政法人国立病院機構医王病院 難病認定看護師 ②「難病患者と家族への精神的支援」 講 師：独立行政法人国立病院機構医王病院 ソーシャルワーカー	

4 難病患者団体について

当センターでは毎年難病患者団体等連絡会を開催し、各団体間で意見交換や情報共有、学習会等を行っています。なお、各患者団体の周知や会員の確保が共通の課題となっていますので、患者団体の周知について、ご協力をお願いいたします。

県内で活動している患者団体は、当センターのホームページに掲載しています。各団体の連絡先、活動内容等については、各団体の紹介ページをご覧ください。



団体紹介
QRコード

- ★ 各事業の対象の方がいらっしゃいましたら、ぜひお勧めください。
- ★ また、秋以降に難病・小児慢性特定疾病の医療講演会・相談会を予定しています。詳細が決まりましたら、ホームページにてお知らせいたします。

石川県難病相談・支援センターホームページ
<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>

QRコード



高次脳機能障害相談・支援センター事業

高次脳機能障害相談・支援センターでは、ご本人やご家族が安心して充実した生活を送ることができるよう、当事者や家族、支援機関等からの相談対応をはじめ、各種研修や教室等を開催しています。

1 講座【本人・家族のための高次脳機能障害講座】

ご本人やご家族が高次脳機能障害についての理解を深める教室であり、日々の悩みや思いを語り合う場です。
(毎回講義の後、「患者と家族の会つばさ」の会員を交え座談会を行います)。

日時	おおよび講師	会場	対象者
6月30日(金) 13:30~15:30	「高次脳機能障害の理解と対応について」 講師：県リハセンター職員	県リハセンター	高次脳機能障害のある方、家族
9月5日(火) 13:30~15:30	「利用できる社会資源について」 講師：県リハセンター職員		
12月4日(月) 13:30~15:30	「就労について」 講師：石川障害者職業センター職員		
令和6年3月7日(木) 13:30~15:30	「家族会の活動について」 講師：高次脳機能障害患者と家族の会つばさ 会員		

2 研修会（オンライン形式で開催）

高次脳機能障害者の支援に携わる方を対象に、高次脳機能障害に関する基礎的な知識を学び、対応方法を身に付けるための研修会を開催いたします。

※下記研修に加え、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士対象の高次脳機能障害専門職研修を冬頃に開催予定です。内容につきましては、あらためてお知らせいたします。

回	日時	内容 おおよび講師	対象者
1	7月21日(金) 14:00~16:30	〈第1部：基礎研修〉 「高次脳機能障害の基礎的な知識」 講師：(第1回) 恵寿総合病院 副病院長 川北 慎一郎 氏 (医師) (第2回) やわたメディカルセンター 診療部長 池永康規 氏 (医師) 〈第2部：連絡会〉 ①「事例紹介：高次脳機能障害の対応について」 講師：県リハセンター職員	支援者
2	11月13日(月) 14:00~16:30	②「当事者の視点から」 発表：高次脳機能障害当事者 ③「高次脳機能障害相談・支援センターについて」 講師：県リハセンター職員 助言者：第1部の各講師	

3 生活支援教室

高次脳機能障害のある方が、当事者同士の交流や活動を通じて、自身の障害についての理解を深めるとともに、日常生活の自立や社会参加に向けて、必要な代替手段を獲得することを目標とした当事者向けの教室です。

※医療機関等から当センターにご紹介ください。

4 (協力依頼) 高次脳機能障害実態調査

高次脳機能障害の当事者・家族への支援の充実や地域支援ネットワークの構築のため、医療機関や福祉施設等のリハ専門職等にご協力をお願いし、今年7月~10月にかけて実態調査を実施する予定としています。

ご回答いただいた結果は「石川県医療計画」や「いしかわ障害者プラン2024」に反映し、今後の支援に活かしていきたいと考えています。ご協力よろしくお願いたします。

★ 秋以降に、「高次脳機能障害の生きづらさを考える」というテーマで、社会的行動障害についての講演会を開催する予定です。詳細が決まりましたら、ホームページにてお知らせいたします。

石川県高次脳機能障害相談・支援センターホームページ

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>

QRコード

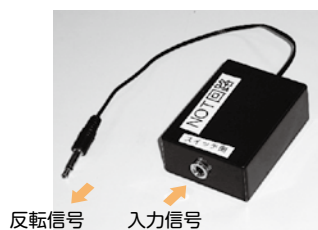


A T (Assistive Technology)に関わる専門職との連携 ～分野別技術者派遣事業～

A Tによる地域支援において、既存の技術では課題解決が難しく、工学的な専門性が必要となる場合に、各分野の専門技術者にご協力いただき、障害のある方々の自立支援に取り組んでいます。現在、デザイン・建築・電子・金属・縫製など、14名の専門技術者の方々のご協力により、課題解決を図っていますが、その例をいくつかご紹介いたします。

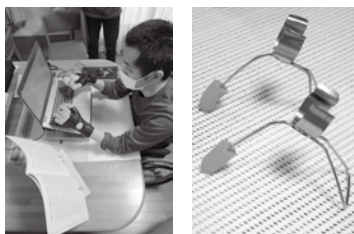
スイッチを押せなくても操作可能に

重度の手指の障害があってスイッチを押すことが難しい方や、スイッチから手を浮かせておくことが難しい方がスイッチを操作できるように、電子設計分野の専門技術者の協力で「スイッチ信号反転装置」を作製しました。これにより、普段はスイッチの上で手指を休めておき、必要時に手指を上げることで、スイッチ操作ができるようになりました。



効率的なキーボード操作を可能に

頸髄損傷などで手指の障害があってパソコン操作が難しい方が、キーボード操作しやすいように「キーボード操作補助具」をデザイン分野の専門技術者の協力で作製しました。これを手で把持することで、機能的にキーボードを押し込むことができ、作業効率が向上し、職場復帰に結びつきました。



力が弱くても電動操作を可能に

筋ジストロフィーや脳性麻痺など手指や腕を上手く動かせない方でも、電動車椅子を操作しやすくする「軽量レバーノブ」を電子加工分野の専門技術者の協力で作製しました。これは、弱い力でも操作しやすい軽量のレバーノブで、操作する方に合わせて形状を工夫・修正できるように3Dプリンタで形作ったものです。



そのほか、リフトや段差解消機などの設備をともなう住宅改修、また増築や新築等の大規模な住環境調整、公共施設のユニバーサルデザイン設計などには建築士等の方々に、ご協力いただき支援を行っています。

リハ専門職だけでは、問題解決が難しい福祉用具や住宅改修などの相談がありましたら、ぜひご相談ください。



ヘルプマークを知っていますか？

ヘルプマークは、難病や内部障害など援助や配慮が必要な方が、日常生活や災害時にそのことを周囲に知らせるマークです。マークを身に着けた方を見かけたときは、ぜひ思いやりのある対応をお願いします。

※東京都が考案してJIS化され、全国で普及が進んでおり、石川県でも配布しています。

配布場所：県障害保健福祉課、各市町福祉課、県保健福祉センター、県リハビリテーションセンター 等

問い合わせ先

石川県リハビリテーションセンター

TEL (076) 266-2860 FAX (076) 266-2864

E-mail iprc@pref.ishikawa.lg.jp

URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kousei/rihabiri>



難病相談・支援センター

TEL (076) 266-2738 FAX (076) 266-2864

E-mail nanbyou@pref.ishikawa.lg.jp

URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nanbyou/>



高次脳機能障害相談・支援センター

TEL (076) 266-2188 FAX (076) 266-2864

URL <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/koujinou/>



「相談は傾聴、親身、親切に」
リハビリテーションセンターでは
県民ニーズに応えるため、
より質の高いサービスの提供を
目指しています。

編集・発行

石川県リハビリテーションセンター
〒920-0353 金沢市赤土町ニ13-1